

2017年5月の言葉

4月の初旬久しぶりに、アカデミー賞の数々の部門で賞を取った「ララランド」を見に行ってきました。テレビで見ているのと違い画面も大きく、音響も抜群、身体全体で感じ取っているという雰囲気です。

しかし、今回も感じたことですが、画面が大きいので一番後ろの席に座ったにもかかわらず、場面によっては一瞬、見ずらくなる時があります。

また、確かにミュージカルなので音響効果の良さが耳から目から身体全体が震えるほど伝わってきます。

家で、テレビの前で座っているのとのこの辺が大きな違いです、

しかしです。耳が遠くなったと思っている私でさえ、ここまで音量を上げる必要があるのかと思います。

こんな風を感じているのは、私だけでしょうか？

映画鑑賞の後、食事をしながら、一人暮らしをしている、友達との会話

「ここ5日間は、一步も外へ出たことがない」

「だから、当然のことながら話をしたことがない」

「私は、話をするのが苦手なのでちょうど良いので、あまり苦にならない」

「だから、積極的に市や町内などで募集しているサークルやボランティア活動には参加する気は、さらさら無い」

「民政委員の方が月に1,2度訪ねてきてくれて、健康状態をきづかってくれる」

「息子夫婦と孫も、ときたま訪ねてくれる程度」

私も仕事がなければ、このようかなーと・・・

帰り道、バスを待っているときご近所の知り合いの方と降りるまでの会話

「この間も、友達と万里の長城まで自転車で、旅行してきましたよ」

「最近は、自転車も良くなって、小さく折りたためるし、軽くなっているものね」

「テントで野宿もするし、泊まっても民宿のような安いところを探すんですよ」

「カエルやトカゲなども食べますよ。」全然問題なさげ

「お酒はいいですね！！ タバコは身体によくないし交友の輪を広げない」

「お酒の話だけでも盛り上がるし、自転車や山歩きの話をしていても楽しくてしかたがない」

「この間も同窓会に行って、酒を酌み交わしながら趣味の話をしていると、どんどん輪が広がってねー」

「酒はいいですよ！！又ご一緒しましょうか？西井さん全然飲まれないですか？残念ですねー」

とバスを降りました。

一日でこれほど両極端の方とお会いし、なんでもない会話から英気と活力を頂ける方との差をしみじみ感じた一日でした。

2017年4月26日 西井 忠義